

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 4 回 助成期間：平成 18 年11月1日～平成 19 年10月31日

テーマ：ぐるっとまるごと校庭エコミュージアム計画

氏名：竹田 惇子 所属：横浜市立大岡小学校

1. 課題の主旨

本校は市街地の真ん中に位置し、校庭も広いとはいえない。15分も歩けば大きな公園があるものの、やはり子どもたちにとっては学校の環境が生活のベースとなることは言うまでもない。校庭の自然環境を豊かにしていくことが望まれているところであった。一方、校舎内の環境に目を向けると、オープンスペースがたくさんあるものの、子どもたちにとって十分に魅力ある学習環境とはいえないのが現状であった。

そこで、学校教育目標「ともに学びをきりひらいていく子どもの育成」の具現化へ向け、校内の教育環境の充実を図り、自然や人とのかかわりを深めていくことのできる子どもを育成したい。特に、自然体験ができる環境を整備していくことが、市街地に立地する小学校にとって必要なのではないかと考えた。身近な自然に積極的にかかわり、直接触れることで、自ら環境を守ろうと意欲をもって実践し、ともに学び合う子どもが育てていきたい。また、校舎内の環境にも目を向け、子どもたちが広く環境問題について考えられる場づくりをしていきたいという思いから、『ぐるっとまるごと校庭エコミュージアム計画』を立案した。学びの充実を目指した教育環境づくりをしていきたいと考えた。

2. 準備

本校の環境整備計画は、自然環境整備と校舎内環境整備の大きく2本の柱で構成されている。『ぐるっとまるごと校庭エコミュージアム計画』の具体的内容は、次の通りである。

- 1) 校庭環境・校舎内環境の現状調査
- 2) 自然体験ができるスポット(場所・内容)および学習環境の整備場所の検討
- 3) 優先順位を決め、整備に着手

3. 指導方法

教員サイドの教育環境推進部を中心にして実施に当たった。また、子どもたちの実行委員会活動も『ぐるっとまるごと校庭エコミュージアム計画』の具体的内容や実施方法などを考えていくことで、自然や人とのかかわりを深めていくことのできる子どもの育成を目指した。

また、横浜市が提唱している「子ども省エネ大作戦」の取り組みに参加し、エコライフチェックシートを活用しながら環境にやさしい生活を考えるとともに二酸化炭素を減らす役割を果たす苗木をいただくことで、学校に森を造ることのねらいを捉えさせた。

4. 実践内容

教育環境推進部および職員会議で検討の結果、以下ようになった。□で囲まれたものが本年度重点的に取り組んだ内容である。

《自然環境》自然に親しみ、生命の大切さを感じるとともに、自然を大切にしようとする

- ・ 花壇、学年園における栽培活動の充実
- ・ □大岡川の生き物飼育活動の充実
- ・ 中庭の池の整備
- ・ なかよしグループ栽培活動の充実
- ・ □メダカ池の整備
- ・ □大岡の森（学校林）の整備

《生活環境》資源やエネルギーの有効性に気付き、有効に活用し、生活をよりよくしようとする

- ・ 教室ゴミ、古紙回収の充実
- ・ 段ボール回収、段ボール置き場の整備
- ・ 地域清掃、落ち葉清掃活動の充実
- ・ □腐葉土置き場コーナーの整備

《学習環境》学習に必要な環境の整備や充実を図り、日々の活動をより活性化しようとする

- ・ 掲示板の整備（実行委員会・クラブ・なかよしグループ・地域ボランティア・□大岡情報マップ）
- ・ 大岡気象台の充実
- ・ 学習情報センターの整備

5. 成果・効果

《自然環境》

- ・ 大岡川の生き物調査および飼育準備、飼育活動[ソーラー発電によるポンプ稼働]
- ・ メダカ池の整備[水生植物の植え付け]
- ・ 大岡の森（学校林）の整備計画立案および準備
- ・ 大岡の森（学校林）の整備[土盛り、植樹]

《生活環境》

- ・ 腐葉土置き場コーナーの整備[レンガの囲い作り]

《学習環境》

- ・ 大岡情報マップの整備[ホワイトボードを利用した学区地図の作成]

6. 所感

この度の理科・環境教育助成によって整備が始まったばかりであるが、子どもたちが「大岡の森」の木の葉を触りながら形の違いを発見している姿や「メダカ池」のメダカを観察する輝いた目を見つけることができた。こうした情報が「大岡情報マップ」に順次掲載されてきている。今後も子どもたちにとって魅力ある学習環境づくりを進めていくことが重要であると改めて感じている。

7. 今後の課題や発展性について

今後も、校内の教育環境の充実を図り、自然や人とのかかわりを深めていくためにも、『ぐるっとまると校庭エコミュージアム計画』の実現へ向けた更なる環境整備に当たっていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

1月に開催された「横浜市環境学習成果発表会」にて、ソーラー発電による大岡川の生き物飼育活動の取り組みと発見・探検クラブのソーラー発電 を利用したお茶づくりと草木染めの活動を報告した。また、2月に行われた横浜市環境創造局主催の「子どもエコフォーラム」においても発信した。